

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。  
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。  
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であった。

A 発音変化に関する問題である。問1はㄷの鼻音化を問う問題であり、問2は用言語幹末の重パッチムやロに接続する場合の語尾ㄱの濃音化を問う問題である。問1は正答率が著しく低かった。正解の「생산량」のような、ㄴㄷの連続における流音化の例外についての知識の難易度が高かったようである。問2は比較的正答率が高かったが、語幹末のロの後で語尾が濃音化する知識が無かったと見られる誤答が下位層の受験者に一定数見られる。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しい理解をしているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語などどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心がけた。概して正答率が高かったが、問2の正解となる「짚고 넘어가다」という慣用句が認識できなかったと見られる誤答が中位層・下位層の受験者に一定数見られる。

C 語句の整序問題である。この問題は新傾向の問題として、今回初めて出題されたタイプのものである。韓国語は日本語と語順がほぼ同じであるため、韓国語文が日本語の直訳とならないようにした。全体として韓国語としての自然な表現を問うことに重きを置き、かつ日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心がけた。概して正答率が高かったが、問3は比較的難しかったようである。「飲むのはもうこれくらいにする」を「그만 마시다」と対応させることが下位層の受験者にはやや難しかったと見られる。

第2問 日常生活でよく使われる表現を素材にして、文脈に沿うように語尾を選択させる問題、文脈に沿って対話を完成させる問題、対話の内容を理解し状況を把握する問題等を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくはないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

A 親しい間柄や店員との会話について、全体の流れや内容を理解しているかを問う問題が中心である。問3以外は正答を導くのは容易い問題であった。

問1 空欄補充問題で、文脈に沿うように語尾を選択するものである。受験者にはなじみの

- ある語尾であるため、取り組みやすい問題である。
- 問2 空欄補充問題で、過去に最も多く出題された形式であり、受験者にはなじみのあるものであった。前後の文脈が把握できれば正答を導き出せる問題である。
- 問3 空欄補充問題で、過去に最も多く出題された形式であり、受験者にはなじみのあるものであった。一語文の正確な意味の理解が不足していた受験者が比較的多かったものと思われるが、難易度はそれほど高くない問題といえる。
- 問4 下線部の表現が表す内容を問う問題であった。前後の文脈が把握できれば正答を導き出せる問題で、決して難しくない。
- 問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、過去にも多く出題された形式であった。会話文を正確に読めれば正解を導くことができる問題である。
- B 記者と作家のインタビューであり、話の流れや内容を理解しているかを問う問題が中心である。正答率もおおむね高く、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。
- 問1 空欄補充問題であるが、副詞の正確な意味を知らない受験者が多かったためか、使用されている語彙が理解できればさほど難しい問題ではないにもかかわらず、正答率はやや低く、受験者にとっては比較的難易度の高い問題であった。
- 問2 下線部が指し示すものの具体例を問う問題であった。選択肢も日本語で難しくなかったため、正答にたどり着くのは容易い問題であった。
- 問3 空欄補充問題で、文脈を理解していれば正答を導き出せる問題であった。
- 問4 会話文の内容と一致する文を二つ選ぶ問題であった。本文の内容が読み取れば正答に到達できる問題であった。
- 第3問 表やモバイル機器の画面、募集案内、メールの画面など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が問題を解くうえで肝要である。問題作成に際して検討を重ねてきたが、難易度のバランスを含め、適切な出題であったと考えている。
- A 表やモバイル機器の画面に書かれてあることを正確に把握し、韓国語で書かれた選択肢から適当なものを選ぶ内容一致問題である。
- 問1 10代から60代までの韓国人男性100名ずつに尋ねた趣味の上位5位までを示した表を見て、それに関する説明を正確に読み取る問題である。選択肢は六つあるが、情報を整理しつつ文の構造に注意すれば取り組みやすい問題である。
- 問2 モバイル機器の画面を見て、その内容を正確に把握する問題である。資料にある文自体は長くないため、使用されている語彙が理解できればさほど難しい問題ではないが、受験者にとってはやや難易度が高めの問題であった。
- B 奨学生募集の案内文に関する問題である。案内文の内容を正確に把握する力が要求される問題である。
- 問1 空欄補充問題である。漢字語であることから選択肢の単語自体の意味は容易に理解・推測できたものと思われ、案内文を読み進めていけば正答にたどり着くのは容易い問題である。
- 問2 本文の内容と一致する説明を選ぶ問題である。選択肢中には部分的に一致と不一致が混じっているものもあるため、一部だけを読んで正答に至るというものではなく、本文全体の流れをつかみ細部を含めた読解が必要であるという点で注意を要する。
- C カーテン業者とのメールのやり取りを資料とした問題である。
- 問1 本文におけるメールの内容を正確に読み取り、カーテン業者に支払う金額を選択する

問題である。ごく単純な計算を含むものの、問題自体は平易なものとなっている。

問2 本文の内容と一致する説明を選ぶ問題である。選択肢の文と照らし合わせつつ、本文を辿れば容易に正答を導くことができる問題である。

問3 メールの内容から正しいイラスト（デザイン）を選択する問題である。本文自体は短く、イラストの描写と関連する語彙を読み取れば容易に正答に到達できる問題である。

第4問 韓国社会に形成されているコーヒー文化の歴史・現状・特徴について書かれているエッセイを読み、その内容を理解する長文問題である。「コーヒー」というある程度なじみのあるテーマであるが、各段落における主張や文脈などを正確に読み取り、その内容に当てはまる表現や具体例、文のつながりなど多様なタイプの問題に答える必要がある。また、得点率は、韓国語全体平均正答率よりやや低かった。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。3問あるが、正答率にはややばらつきがあり、「包含」の「包」を問う問題の正答率が「需要」の「需」と「傾向」の「傾」を問う問題に比べて低かった。

問2 本文の構成・文脈を把握し、提示された文を適切な箇所に配置する問題である。第4問の中では難易度の高い問題であった。

問3 下線部の具体例を当てる問題で、中間程度の難易度であった。

問4 前後の文脈を理解し、適切な副詞表現を入れる問題である。難易度はそれほど高くなかった。

問5 前後の文脈・内容から判断し、適切な語句表現を入れる問題である。やや難易度の低い問題であった。

問6 韓国社会におけるコーヒー文化の特徴を表すまとめとして、それぞれ二つの段落の導入部に当てはまる適切な語句表現を入れる問題である。各段落の内容をある程度把握できれば解答を導き出せるため、難易度は低い問題であった。

問7 該当する文章の文脈・文法を考慮し、動詞の適切な連体修飾語を選ぶ問題で、難易度はやや低い方であった。

問8 先行の文脈から判断し、下線部の理由を選ぶ問題である。やや低い難易度であったと言える。

問9 全体の文脈から判断し、本文全体のタイトルとして最も適切なものを選ぶ問題である。第4問の中では難易度の最も低い問題であった。

問10 全体の内容と一致するものを選択する問題で、本文全体の内容を正確に把握することが求められる。②と⑤の二つを選ぶ必要があるが、第4問の中では難易度の最も高い問題であった。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

共通テストも3年目となり、実生活の中で接する文章を読んで問題解決を図る問題や、長文の中に漢字問題や文法問題を組み込むなどのこれまでの試みを定着させると同時に、並べ替え問題を新しく出題するなど、より実践的なコミュニケーション能力を重視した問題にするための工夫を行った。

第1問に関しては相変わらず発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判があった。このような指摘について、本部会の見解は以下の通りである。

多くの大学で、文理を問わず外国語科目を必修として課しているが、本部会としては大学における言語教育とは、「コミュニケーションの道具」としての言語能力のみならず、言語自体に注目する

ことで人間の文化・社会の在り方や認知・行動の在り方、究極的には人間そのものの在り方について理解を深めていくという意味も含むものと理解している。また、言語を規則的・体系的に理解していくその過程は、まさに「論理的思考」や「思考力」を養う実践的過程でもあり、その過程を前提として「正確な発音・語彙・文法の知識を問う」ことは中等教育と大学教育を繋げる共通テストの意義という観点からも、妥当であると考えている。また、高校での授業の範囲を超える、または高校教育の現場で取り上げられていない学習領域であるため、現在の第1問のような問題を出題すべきでないとの指摘については、その「問い方」については今後も改善の余地を追求していくべきと考える一方で、こうした趣旨の問題自体は現状程度には必要と本部会では認識している。つまり、語学学習において実用的運用能力を獲得するには「学習者主導の実践的学習」「アクティブ・ラーニング」が不可欠であり、学習者が教室で、教科書で学ぶ学習範囲に閉じこもらず、自ら関心を広げて実践的な韓国語に積極的に触れるような学習姿勢が不可欠であると本部会では認識しており、その意味で、より幅広い実践的経験を持つ学生が有利になるような出題も少数あることは重要であると考えられる。これは「知識だけを問う」のではなくむしろ「教室外での自律的・実践的学習を促す」つまり「幅広い実践的な韓国語に普段から進んで接することを促す」ものであると理解されたい。

問題作成の実際においても、短文の中で語の正しい発音や使い方を問うことにも意味がある。それらを会話文や長文においてのみ問うことには限界があり、逆に会話や長文の題材選びや問題作成に困難をきたすことが考えられる。よって、今後も発音や文法問題はなるべく文章の中に組み込む努力は続けるものの、第1問のような形式の問題は存続させる前提でこれからもより工夫を凝らすべきと思われる。

実用文の出題について、方式については未だ試行錯誤中だが、問題の質自体は前年度よりも更に向上した。そして以前からあった、受験者が読まなければならない文章の量が多く、これを今後も減らす努力が必要であるとの指摘についても改善の努力を続けており、今回はその面での指摘は余りなかった。

長文問題は、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。1つの長文に関する問いの数が増えたが、全体の配分を考えると適量であると評価された。今年度は、テーマにおいても配慮し、身近な素材から始まって文化的特徴にたどり着くような内容になった。その結果、肯定的な評価が得られた。

昨年度に続き、今回の問題も高等学校入学以降の学習者にも十分解ける問題であると思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

#### 4 ま と め

共通テスト開始に当たって実用問題を取り入れるなど新たな取組がなされて今年度で3回目となるが、まだ課題は残る。実用問題における題材や形式については、新しい試みであるだけに様々な可能性がある一方で、大学入試問題として許容される実用文の範囲をどう定めるかという基準設定の問題もあり、今後も議論を要する。長文問題においても、共通テストになってからは主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるようにすることについても検討していく必要がある。また、全体の分量に常に留意する必要があり、使用語彙や文法項目については学習範囲から適切に出題されているとの評価を頂いたので、今後もこの方針を維持していく。